大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	107	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	体育奨励事務費					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	市民スポーツ係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.01	301	01	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市民及び市内勤務者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 年齢や体力に応じて気軽に楽しめるようなスポーツ・レクリエーション活動の支援・普及に努め「市民一人1スポーツ」を推進する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 市民のニーズに応じたスポーツ教室や大会を開催するほか、出前講座の実施によりニュースポーツの普及を図る。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 スポーツに親しむ機会を増やすことにより、市民の健康と体力の維持、増進が図られている。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①スポーツ大会出場激励金制度の普及	各種媒体での発信回数	3	回
			②スポーツ推進委員の指導力向上	実技研修の開催	5	回
			③大田原マラソン大会の実施	マラソン大会エントリー者	2,800	人
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①競技人口の拡大	スポーツ大会出場激励金受領者	150	名
			②ニュースポーツの普及	スポーツ推進委員による出前講座	50	回
			③RUNNET大会レポート	大会参加者によるマラソンポータルサイト「RUNNET」における大会評価点数	85	点

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	市民の健康と体力向上を図るため、各種大会及び教室の開催、関係団体への補助、各種団体が開催する大会等の運営補助を実施している。 関東大会、全国大会に参加する市民に対し、スポーツ大会出場激励金制度により激励金を交付、さらには県大会に参加する団体に対しバス借上の助成を行っている。 ニュースポーツの普及を目的にスポーツ推進委員による出前講座を行っている。 本市の一大スポーツイベントである大田原マラソン大会をはじめ、各種スポーツイベントを実施している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	52,225	61,174			
	(c) コストの対前年比		117.14%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① スポーツ大会出場激励金制度の普及	3	回	3	1	増加指標	100.00	%	a	a
	② スポーツ推進委員の指導力向上	5	回	5	1	増加指標	100.00	%	a	
	③ 大田原マラソン大会の実施	2,800	人	3,327	1	増加指標	118.80	%	a	

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 競技人口の拡大	150	名	154	1	増加指標	102.70	%	a	c
	② ニュースポーツの普及	50	回	34	1	増加指標	68.00	%	c	
	③ RUNNET大会レポート	85	点	94	1	増加指標	110.20	%	a	

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		各事業の周知については、ホームページや広報等での周知に努める。 特に、「スポーツ大会出場激励金」の制度については、県内の高校や市内の中学校、スポーツ少年団に対し周知徹底を図る。 市の一大スポーツイベントである大田原マラソン大会については、ホームページやSNSを活用し募集定員の確保に努めたい。また、日本陸連公認大会として安全に大会を開催するための準備を進めていく。
	前年度からの改善結果	改善した	各事業の周知については、市ホームページや広報、よいちメールを始め、SNS等での周知に努めてきた。 大田原マラソンについては、ランナーファーストの大会運営とゲストランナーの招聘などきめ細やかな企画を準備したことで、参加者数を伸ばすことができた。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	B	B	各種イベントの開催においては、計画通り事業を実施することができた。 市の一大スポーツイベント大田原マラソン大会については、第35回、復活3年目の大会を前年より参加者を増加できたのは大きな成果と言える。

5.今後の取組に向けて（Act）

(1) 事業実施上の課題等	令和5年度に創設した「スポーツ大会出場激励金」について、さらに周知を図っていくことに合わせ、近隣の市町の状況を見ながらより良い制度となるよう改善を図っていく。 コロナ禍以降、イベントの在り方が大きく変わった。特に学校と連携して進めてきた小学生相撲大会については、相撲競技の指導に対する安全性の確保や教師の働き方改革などにより、学校行事としての児童の参加が見込めずに、イベント規模が縮小したことから令和8年度においては那須野が原青年会議所主催の「わんぱく相撲」とのタイアップを予定している。 大田原マラソン大会やくろばねマラソン大会については、コロナ渦の落ち着きもあり参加者が増加となっている。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	各事業の周知については、引き続き市ホームページや広報、SNS等を通じて周知に努める。 特に、「スポーツ大会出場激励金」の制度については、県内の高校や市内の中学校、スポーツ少年団に対し周知徹底を図る。 少子化や人口減により、各種スポーツの競技人口も減少傾向にある。それに伴いイベントの在り方も検討していく必要がある。 大田原マラソン大会やくろばねマラソン大会については、事業内容の改善に努め、魅力ある大会にしていきたい。ホームページやSNSを活用し募集定員の確保に努めたい。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	B	各事業の周知については、引き続き市ホームページや広報、SNS等を通じて周知に努める。 特に、スポーツ推進委員による出前講座については、各地区公民館や学校等と連携をとり、周知活動を増加し誰でも楽しめるニュースポーツの普及に努め、市民の健康維持や「市民一人1スポーツ」の推進に寄与する。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	97	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	体育施設事務費					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	303	01	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 県立県北体育館の受付での夜間休日の各施設申請者、トレーニング室の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 県立県北体育館の夜間休日受付事務、トレーニング室の利用講習、トレーニング室の管理を委託することによる人件費の抑制
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 人件費を抑制するとともに、夜間休日にも受付を実施することによる利用者の利便性の向上、トレーニング室の適正な管理が可能。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 行財政改革の推進

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①県北体育館夜間利用受付件数	令和元年度受付件数(コロナウイルス流行以前)	360	件
			②トレ室講習件数	令和元年度実施件数(コロナウイルス流行以前)	110	件
			③トレ室利用可能日数	令和元年度実施件数(コロナウイルス流行以前)	320	日
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①トレ室利用者数	令和元年度利用者数(コロナウイルス流行以前)	13,100	人
			②トレ室講習参加者数	令和元年度参加者数(コロナウイルス流行以前)	420	人
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	県北体育館のほか各施設の夜間休日の受付業務、トレーニング室の受付業務委託を行い、職員の人件費軽減を図るとともに、利用者にとって便益性の高い施設運営を行っている。なお、平成29年度からはトレーニング室の管理業務を大田原市スポーツ協会に委託している。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	16,544	18,054			
	(c) コストの対前年比		109.13%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 県北体育館夜間利用受付件数	360	件	540	1	増加指標	150.00	%	a	a
	② トレ室講習件数	110	件	113	1	増加指標	102.70	%	a	
	③ トレ室利用可能日数	320	日	343	1	増加指標	107.20	%	a	

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① トレ室利用者数	13,100	人	9,068	1	増加指標	69.20	%	c	c
	② トレ室講習参加者数	420	人	261	1	増加指標	62.10	%	c	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図っていきたい。 栃木県に対してトレーニング室の設備更新要望を引き続き行う。
	前年度からの改善結果	検討中	大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図る。 栃木県に対してトレーニング室の設備等更新要望を引き続き行う。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	B	B	夜間、休日の就業前に問題点や引き継ぎ事項などの文書を作成し、職員が不在の際も円滑に受付業務が行えるように努めている。 令和5年度以降については、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行するなど、感染症発生以前の状況に戻りつつあるため、安全を確保しつつ利用者の増加を図っていく。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	シルバー人材センター内の人材確保が厳しいため、平日の日中が1人体制となってしまい労働時間が長時間となってしまう。契約内容は、労働基準法上、問題が無い範囲であるが、栃木県スポーツ振興課から契約内容や仕様書記載内容の改善要請がでていたため、内容の見直しを行うこととした。 トレーニング室の器具の老朽化が進んでおり、利用者の減少の一因にもなっている。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	大田原市シルバー人材センターとの連絡調整を行い、適切な労働環境を整えるとともに、スキルアップを図る。 栃木県に対してトレーニング室の設備更新要望を引き続き行う。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	B	近隣の最新設備を設置する民間のジムが手ごろな価格で利用できることから県北体育館のトレーニング室利用者が減少していると考えられる。 栃木県に対してトレーニング室の設備更新要望を引き続き行っていくとともに利用促進の周知を行っていく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	98	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	体育館及び武道館管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	304	01	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 大田原体育館及び武道館の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 適切な維持管理のため適正な予算化を図る。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①体育館使用申請受付件数	前年度受付件数3%増	1,412	件
			②武道館使用申請受付件数	前年度受付件数3%増	257	件
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①体育館利用者数	前年度利用者数÷11月(開館月数)×12月	25,675	人
			②武道館利用者数	前年度利用者数÷11月(開館月数)×12月	4,215	人
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	大田原体育館及び武道館は市の中心部にあり、各種市民スポーツの推進及び武道の修練の場として多数の市民に利用されているが、昭和46年に建築され50年が経過しており、施設の老朽化がかなり進んでいる。耐震化も未実施であることから、今後においては改修又は移転新築等を視野に入れていく。 令和7年度は天井照明器具のLED化を実施した。今後も施設の修繕を行っていく必要がある。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	7,109	11,762			
	(c) コストの対前年比		165.45%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	15	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 体育館使用申請受付件数	1,412	件	1,545	1	増加指標	109.40	%	a	a
	② 武道館使用申請受付件数	257	件	269	1	増加指標	104.70	%	a	
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 体育館利用者数	25,675	人	22,965	1	増加指標	89.40	%	b	b
	② 武道館利用者数	4,215	人	3,905	1	増加指標	92.60	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。
	前年度からの改善結果	検討中	これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	バスケットゴールの耐用年数や防球ネットの破損、照明のLED化問題など多くの課題がある施設である。安全面を考慮し、早めの対策が必要であるが、施設の建て替えを視野にいれているため実施するか悩ましい。可能な範囲内での施設の維持補修に努めていきたい。令和8年度より公共施設予約システムでの予約並びに抽選申し込みが開始され利便性の向上により、利用者数の増加が見込まれる。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	施設の老朽化が著しい。床材の割れも各所で確認されており大規模修繕が必要な状況となっている。大田原体育館は、ほぼ毎日市スポーツ協会各専門部の利用があり、また、週末は中学・高校の大会等で利用がある。 ハーモニーホール駐車場がバス駐車場として利用不可となるため、周知の徹底が必要である。また、大田原体育館前の砂利駐車場が職員駐車場となり、職員利用のない土日は利用者が使用できるようになったため、利用について注意する必要がある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	これまでどおり継続して利用してもらえるよう、予算の範囲内で可能な修繕、維持管理を行っていく。また、管理業務を委託しているシルバー人材センター会員と連絡、意思疎通をはかり、適切な運用を行う。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	99	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	美原公園管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	306	01	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 美原公園内の本球場、第2球場、陸上競技場、テニスコート及び相撲場の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者の増加を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 適切な維持管理のため適正な予算化に努める。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設の適切な維持管理により利用者の増加を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	① 使用申請受付数	前年度申請の受付数2%増加	9,402	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 利用者増促進	前年度利用者数÷9月(開館月数)×12月	205,321	人
			② 園内施設の平均利用率設定	前年度平均利用率の3%増	85	%
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	美原公園は市のスポーツ施設が集中している運動公園で、野球場、第2球場、テニスコート、相撲場、陸上競技場などの施設を配置しており、本市のスポーツ振興において市民のニーズに合致する重要な施設に位置付けられている。 令和7年度はテニスコート、第2球場のナイター照明設備のLED化をはじめ、相撲場観客席修繕、第2球場役員室へのエアコン設置工事、陸上競技場南側ゲート付近の人工芝張り工事を行った。また、利用者の荷物の盗難等が相次いだことから、陸上競技場内3か所への防犯カメラ設備工事を行った。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	33,816	36,501			
	(c) コストの対前年比		107.94%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	14	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 使用申請受付数	9,402	件	7,753	1	増加指標	82.50	%	b	b
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 利用者増促進	205,321	人	196,756	1	増加指標	95.80	%	a	a
	② 園内施設の平均利用率設定	85	%	90	1	増加指標	105.90	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 水泳プール跡地利活用は、財源不足であるため補助金等の検討を進めたい。
	前年度からの改善結果	検討中	前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 水泳プール跡地利活用は、財源不足であるため補助金等の検討を進めたい。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	施設の利用者数は増加傾向にある。 相撲場観客席修繕、第2球場役員室へのエアコン設置工事、陸上競技場南側ゲート付近の人工芝張り工事を行った。また、利用者の荷物の盗難等が相次いだことから、陸上競技場内3か所への防犯カメラ設備工事を行った。これらのことから施設の利便性の向上につながったと考えられる。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	施設の老朽化による修繕や、利用者のニーズに合わせた改修などが多い施設である。令和7年度にテニスコートと第2球場、陸上競技場外周の照明設備のLED化を行った。また、相撲場の照明設備は水銀灯であるため今後LEDへの改修が必須になると思われる。 施設・設備の現状把握に努め、迅速な対応、適切な維持管理を行わなければならない。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 美原公園再整備は時間を要するが、今後を見据え慎重に計画を進める。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	前年度同様、施設及び設備の現状把握に努め、改善に向けて迅速な対応及び的確な維持管理を行い、より多くの利用者が安心して利用できる施設管理を行う。 美原公園再整備は時間を要するが、今後を見据え慎重に計画を進める。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	100	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	学校開放施設管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	308	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市内小中学校及び学校跡地運動場の体育館、校庭、武道場の開放施設の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 スポーツ施設の管理体制の充実を図り、適切な維持管理のため適正な予算化を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設利用者数の増加

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①使用申請受付件数	前年度受付件数の3%増	5,000	件
			②開放施設数		35	校
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①利用者数	前年度利用者数の3%増	149,000	人
			②施設の利用率	利用日数／使用可能日数	45	%
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	学校開放施設である市内小・中学校及び学校跡地運動場の校庭、体育館、武道場等の施設維持管理管理を行い、市民等に無料開放している。地域住民の身近に利用できる施設として大変重要な役割を担っている。令和7年度においては、利用者数は目標値の約0.7%減となったが、成人利用の他、部活動等の恒常的な利用需要がある施設であるため、今後も適切な施設維持管理に努めていく。
(2)備考	特になし。

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	43,064	52,904			
	(c) コストの対前年比		122.85%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	3		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 使用申請受付件数	5,000	件	7,830	1	増加指標	156.60	%	a	a
	② 開放施設数	35	校	34	1	増加指標	97.10	%	a	
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 利用者数	149,000	人	147,917	1	増加指標	99.30	%	a	a
	② 施設の利用率	45	%	46	1	増加指標	102.20	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努める。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整える。施設の修繕等は、予算の中で優先順位をつけて行う。
	前年度からの改善結果	改善した	施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努めた。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整えた。施設の修繕等は、予算内で優先順位をつけて行った。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	利用者の多い市街地の学校施設と比べ、郊外の学校施設及び学校跡地運動場の利用者が少ないため、利用者が希望する市街地の学校施設が利用できない際に、郊外の学校施設の利用を継続して促している。コロナ禍が終息し、令和7年度において利用者数は目標値の約0.7%減の結果となったが、成人以外に児童の部活動団体が各学校施設に参入する動きが多く見られ、利用者数は増加していくことが想定される。各学校施設においては、教育施設であることを常に心掛け、児童・生徒の安全を第一に事業運営を行い、学校跡地運動場も併用しながら、引き続き施設全体の利用者数増に努める。

5.今後の取組に向けて（Act）

(1) 事業実施上の課題等	○高齢化の進む学校開放施設及び学校跡地運動場の管理人確保が課題となっており、現在管理人不在の利用頻度の高い施設については、シルバー人材センターへ委託し繋いでいる状況であるが、全ての管理人不在施設への委託配置は困難な状況であるため、今後の運営方法について検討が必要である。 ○学校跡地運動場については、老朽化した施設建物等の継続・廃止の判断と、その判断結果に基づいた改修・解体等に要する費用の予算化が必要となる。また、旧校舎建物以外の校庭敷地・体育館建物の維持管理がスポーツ振興課管とされているが、管轄区分に曖昧な部分が多く、全体的な学校跡地の管轄区分の確認と見直し、運動場ありきではない廃校の有効な利活用法についての検討が必要と考える。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努める。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整える。施設の修繕等は、予算の中で優先順位をつけて行う。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	施設状況をよく把握して適切な維持管理を進めながら、利用者に快く利用してもらうよう努める。開放施設によって利用率に格差があることから、担当課において空き状況等を把握し、利用希望団体に斡旋できる体制を整える。施設の修繕等は、予算の中で優先順位をつけて行う。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	101	評価年度	令和9年度事業
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	屋内温水プール管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	414	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 市内外に住む老若男女の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 スポーツ施設の管理体制の充実を図るとともに、適切な維持管理のため適正な予算化を行う。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設利用者数の増加

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①指定管理者との打合せ回数	週1回打合せ等を実施	50	回
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①利用者数	前年度利用者数の10%増	38,500	人
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	一年を通して利用が可能な温水プールは、夏の遊技場としての利用をはじめ、リハビリや健康の維持増進の役割を兼ね備えた施設となっており、令和7年4月から令和12年3月までの5年間、(株)フクシ・エンタープライズと指定管理者契約を締結し運営している。当施設は平成4年の開館以来約30年が経過し、各設備の老朽化に伴う計画的な改修が必要となっており、平成27年度以降、プール循環装置ろ材充填業務委託、プール循環装置用オゾン発生装置点検業務委託、プール循環装置内部点検業務委託、ろ過循環器ポンプモーター交換工事、吊り天井改修工事、ろ過循環ポンプモーター交換工事、ポリカーボネート屋根修繕工事など、施設維持管理に必要な委託・工事を実施してきた。 利用者数は徐々に微増しており、令和7年度利用者数は目標値の約101%を達成。今後も増加が見込まれる。
(2)備考	特になし。

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	91,147	70,145			
	(c) コストの対前年比		76.96%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	13	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	3		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	3		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 指定管理者との打合せ回数	50	回	60	1	増加指標	120.00	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 利用者数	38,500	人	38,828	1	増加指標	100.90	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		今後もコロナ禍以前の利用者数の回復を図っていきたい。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズは、県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務においての知識とノウハウを持ち合わせており、今後も密に連絡調整を行い、協力して利用者数の増加に努める。利用者増に向け施設イベントや講座開講の充実も検討していく。
	前年度からの改善結果	検討中	令和7年度においては、コロナ禍以前の利用者数の回復を図るため、運営に必要な施設設備の必要な維持管理(修繕・工事)を実施した。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズとも密に連絡調整を行い、利用者の声への対応や、施設設備の維持管理に関して協力して進めることができた。今後も継続して利用者増に向けての対策を指定管理者と協議・検討し実施していく。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	令和7年度においては、プールの維持管理に必要となるポリカーボネート屋根改修工事を実施した。 利用者数は目標値の約101%を達成するなど、利用者数は徐々に回復しており、今後も増加が見込まれる。また、指定管理者からは、施設運営に係る事項に関して随時報告と提案もなされている。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	○平成4年の開館以来30年が経過、施設設備の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕又は改修が必要である。 ○65歳以上のシニア利用者が多く(高齢者割引100円)、収入増が見込めない。 ○コロナ禍以前の年間利用者数は、約5万人が当施設の規模的に適正な数字であり、以前の利用者数まで回復に努める。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	今後はコロナ禍以前の利用者数までの回復を図っていきたい。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズは、県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務においての知識とノウハウを持ち合わせており、今後も密に連絡調整を行い、協力して利用者数の増加に努めたい。利用者増に向け施設イベントや講座開講、指定管理者自主事業の充実を検討していく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	今後はコロナ禍以前の利用者数までの回復を図っていく。また、指定管理者である(株)フクシ・エンタープライズは、県内外のプール施設管理に多くの実績を持ち、管理業務においての知識とノウハウを持ち合わせており、今後も密に連絡調整を行い、協力して利用者数の増加に努める。利用者増に向け施設イベントや講座開講、指定管理者自主事業の充実を検討していく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	102	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	栃木県立県北体育館管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	498	01	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 栃木県から指定管理を受けている栃木県立県北体育館の利用者を対象とする。
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 県北地域における中核的なスポーツ施設として、全国大会等の開催はもちろんのこと、スポーツサークル活動や健康づくりなど幅広い利用を促進し、県民の体育・スポーツ活動の充実と生涯スポーツの積極的な推進を目的とする。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 指定管理者制度に基づく施設の適切な維持管理と県立施設としての貸館業務の対応
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 利用者における高い質のパフォーマンスの発揮及び快適な利用環境の実感

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	① 専用利用申請の受付件数	令和元年度受付件数(コロナウイルス流行以前の件数)×1.1	1,450	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	① 利用者数	令和元年度受付人数(コロナウイルス流行以前の利用人数)×1.1	381,000	人
			②			
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況 (前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	栃木県立県北体育館は、管理及び運営業務を指定管理制度のもと本市が受託している。本市を含め県北地区のスポーツ普及・振興に不可欠な拠点施設であり、地区・県・全国規模の大会や、Bリーグ宇都宮ブレックスの試合会場、市産業文化祭等のイベント会場としても利用されているほか、2022年には「いちご一会とちぎ国体」の会場としても利用されている。これらの大会等が実施できるよう施設や備品等の適切な維持管理・更新を行い設備の充実を図っている。 令和6年度は、シャワー等を使用する際に必要なボイラー設備が故障し、一時温水が出ない状況であったが、栃木県と連携して早期に設備を更新した。令和7年度についても懸案であった券売機の新札未対応について更新を行い、また県と調整を続けることで電光掲示板を更新するなど、利便性向上を図った。
(2)備考	令和5年度以降、新型コロナウイルス感染症対策による休館はなし。

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	74,245	82,741			
	(c) コストの対前年比		111.44%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

		活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	①	専用利用申請の受付件数	1,450	件	1,530	1	増加指標	105.50	%	a	a
	②						算定不可		%		
	③						算定不可		%		

		成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	①	利用者数	381,000	人	541,567	1	増加指標	142.10	%	a	a
	②						算定不可		%		
	③						算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)		必要に応じ、施設や設備、物品の修繕を行い、適切な維持管理を行っていく。また、大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。
	前年度からの改善結果	改善した	必要に応じ、施設や設備、物品の修繕を行い、適切な維持管理を行った。かねてから懸案であった新札未対応の施設利用券売機について、指定管理委託仕様書のもと、指定管理者においてリース契約による更新を行い、利用者の利便性向上及び両替対応していた窓口負担の軽減を図った。また、県と調整を続けることで電光掲示板を更新した。引き続き大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を重ね、順次更新を行っていく。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	指定管理者制度に基づく施設管理であるため、大規模な修繕や設備更新については依然として栃木県の予算措置に頼らざるを得ない状況である。限られた予算の中で必要な修繕や更新に優先度を決めながら運営している。今後は、さらなる利用促進に加え、老朽化しつつある栃木県立県北体育館の維持補修が課題となるため、栃木県と協力し対応していくことが必要となる。

5.今後の取組に向けて（Act）

(1) 事業実施上の課題等	開館から30年程経過し、非常用直流電源蓄電池や電動ブラインド、各種アリーナの備品など、経年により更新が必要な設備・備品が多くある。 施設そのものとしても、経年劣化が目立ち始めており、修繕が必要な部分が増えてきている。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	必要に応じ、予算の範囲内で施設や設備、物品の修繕を行い、適切な維持管理を行っていく。また、大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	必要に応じ、予算の範囲内で施設や設備、物品の修繕を行い、適切な維持管理を行っていく。また、大規模工事や改修が必要なものについては、県に対し更新要望調査等で要望を行い、順次更新を行っていく。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	103	評価年度	令和9年度事業
優先度	A	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	大田原グリーンパーク管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	635	01	000	基本事業		
事業期間	■単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 大田原グリーンパークの利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 適切な維持管理のため適正な予算化を図る。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設の適切な維持管理により利用者増を図り、市民の心身の健全な発達と、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①利用申請受付件数	前年度申請件数の3%増	473	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①利用者数	前年度利用者数の3%増	36,065	人
			②施設利用率	前年度利用率の3%増	53	%
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	大田原グリーンパークは平成15年度に完成したサッカー・ソフトボール兼用コートであり、本市のサッカー及びソフトボールの競技力の向上に不可欠な施設である。 令和7年度は利便性向上のため門扉の修繕を行った。 周辺の稲の発育不良問題については薬剤散布時に周辺の稲に影響が出にくいようにシートを用いて散布する等の結果、問題は発生していない。今後の経過を観察し、問題があれば再度協議し対応していく。グラウンドゴルフ等の芝コートの利用が増えていることもあり芝の生育状況をより注視して管理する必要がある。
(2)備考	

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	16,452	25,028			
	(c) コストの対前年比		152.13%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	4	16	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 利用申請受付件数	473	件	414	1	増加指標	87.50	%	b	b
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 利用者数	36,065	人	45,971	1	増加指標	127.50	%	a	a
	② 施設利用率	53	%	49	1	増加指標	92.50	%	a	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	照明設備の修繕を行い、現状の起きている課題を解決する必要がある。 芝の管理について、除草剤を散布をするタイミングで業者と薬害の影響がでている周辺の水田の所有者と事前協議をして、円滑な維持管理を継続していく。	
	前年度からの改善結果	改善した	芝の管理による稲作の薬害問題について、保守管理業者の対応により6年度は薬害の影響は確認できていない。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	芝の保守管理業者には、芝管理だけでなく、施設内の植栽や樹木、周囲の除草などを計画的に実施してもらい、環境美化にもつながっている。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	夏季の気温上昇、一時的な大雨に対しての雨除けとなる待避所等の設置を要望されている。 除草剤散布を定期的に実施するが、施設が農地に囲まれており地元から注意喚起の要望が来ているので今後も委託業者と連携し注意を払いたい。 令和7年度にナイター照明のLED化を完了した。芝の保守管理業者より平日のグラウンドゴルフ利用の増加に伴う芝への影響について報告があり、今後芝コートの利用日が増えると芝の生育に影響が出ると考えられる。芝の管理状態について今後注視する必要がある。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	芝の管理について、除草剤を散布をするタイミングで業者と周辺の水田の所有者と事前協議をし、稲作に影響を出さない施設管理をおこなっていく。現状、除草剤を散布する際に風に運ばれて吹き抜けてしまうと予測される箇所に農薬飛散防止ネットを張り、対策しており、令和7年度は影響は確認されなかったが今後も状況を注視していく。 芝の管理について芝の種や肥料をまいた直後に利用が入ると芝の生育に大きな影響が出る可能性があり、芝コートの利用回数や利用団体の利用状況を随時確認する必要がある。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	芝の管理について、除草剤を散布をするタイミングで業者と周辺の水田の所有者と事前協議をし、稲作に影響を出さない施設管理をおこなっていく。現状、除草剤を散布する際に風に運ばれて吹き抜けてしまうと予測される箇所に農薬飛散防止ネットを張り、対策しており、令和7年度は影響は確認されなかったが今後も状況を注視していく。 芝の管理について芝の種や肥料をまいた直後に利用が入ると芝の生育に大きな影響が出る可能性があり、芝コートの利用回数や利用団体の利用状況を随時確認する必要がある。

大田原市事務事業評価兼実施計画シート

令和9年度版

★ PDCAサイクルを回して事務事業を改善しよう！

事業番号	104	評価年度	令和9年度事業
優先度	B	シート区分	総合計画

1. 基本事項

事務事業名	黒羽運動公園管理事業					計画	おおたわら国造りプラン	
担当名	部名	課名	係名				計画での位置付け	No.
	教育部	スポーツ振興課	管理係			政策	政策2 歴史や伝統文化を継承し、豊かな心を育むまちづくり	2
予算科目	会計名	款・項・目	事業(大)	事業(中)	事業(小)	施策	(14)スポーツ・レクリエーションの振興	14
	一般会計	10.06.02	700	01	000	基本事業		
事業期間	□単年度 □複数年度					(～ 年度)		

2. 計画(Plan)

(1) 計画内容	対象	この事業で誰(何)を対象にしているかを、具体的に記入します。 黒羽運動公園の構成施設のうち、スポーツ施設(多目的運動場、テニスコート、陸上競技場)の利用者
	目的	何のためにこの事業を行うかを記入します。 スポーツ施設の安全性と快適性を十分備えた施設環境を提供し、市民一人1スポーツの取り組みを推進する。
	手段	この事業のためどのような行政活動を行うかを記入し、この行政活動の結果からつくり出すものを活動指標欄(下記)に記入します。 施設設備の定期点検等を通じて故障等の早期発見を行い、施設修繕、改修を適時実施するなど、施設の適切な維持管理により利用者増を図る。
	成果	この事業を行うことによって、どのような成果・効果があるか記入し、その最終的な成果を成果指標欄(下記)に記入します。 施設利用の促進により、余暇活動の充実及び健康増進が図られる。

(2) 指標設定	指標内容		指標名称	目標値の算出式(又は方法)	目標値	単位
	活動指標	行政活動の結果からつくりだすもの	①使用申請受付件数	前年度の受付件数	1,431	件
			②			
			③			
	成果指標	事業実施による最終的な成果・効果	①利用者数	前年度の利用者数	27,300	人
			②施設の利用率	前年度の利用率	52	%
			③			

3. 実行 (Do)

(1) 事業の実施状況(前年度比較等) ※新規事業は事業が必要な理由及び概要	市民一人1スポーツの取り組みを推進するため黒羽運動公園内の陸上競技場、テニスコート、多目的運動場の施設管理運営を行っている。コロナ禍が明けた令和6年度においては、利用者数は目標値を達成することができた。市郊外という立地的な問題や、無料体育施設への利用者の流出といつた課題もあるが、今後も利用者数の増加を目指していきたいと考えるが、当公園内施設は使用開始から20年以上経過による老朽化が進んでおり、修繕が必要な箇所も多くあり、今後改修や更新等の検討が必要な時期を迎えている。
(2)備考	特になし。

(3) コスト計算	内容	令和7年度 決算額	令和8年度 予算額			
	事業費計	21,698	24,426			
	(c) コストの対前年比		112.57%			

4. 評価（Check）

	評価内容			評価点数	合計点数	妥当性評価
(1) 妥当性評価	① 自治体が実施するのが妥当な事業である(あった)か。	妥当性	高い・・・ 4	3	15	a
	② 計画(対象・目的・手段)は妥当である(あった)か。		やや高い・・・ 3	4		
	③ 資金(税金)投入は妥当である(あった)か。		やや低い・・・ 2	4		
	④ 上位政策・施策を達成するのに妥当である(あった)か。		低い・・・ 1	4		

	活動指標名	目標値 a	単位	実績値 b	指標の性質		達成率 b/a		効率性評価 各指標評価	効率性評価 指標全体評価
(2) 効率性評価	① 使用申請受付件数	1,431	件	1,476	1	増加指標	103.10	%	a	a
	②					算定不可		%		
	③					算定不可		%		

	成果指標名	目標値 c	単位	実績値 d	指標の性質		達成率 d/c		有効性評価 各指標評価	有効性評価 指標全体評価
(3) 有効性評価	① 利用者数	27,300	人	28,170	1	増加指標	103.20	%	a	b
	② 施設の利用率	52	%	46	1	増加指標	89.00	%	b	
	③					算定不可		%		

(4) 担当課評価	前年度記載今後の取組(修正、改善等)	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕や更新を行い、利用者の増加を図る。	
	前年度からの改善結果	検討中	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕を行った。
	評価表からの評価	担当課評価	評価の理由等
	A	A	令和7年度においては、目標値である利用者数を達成することができた。市郊外という当施設の立地的な問題や、無料の体育施設へ利用者が流れている現状もある。引き続き適正な維持管理を行い、更なる利用者増を目指すが、当公園内施設は使用開始から20年以上経過し老朽化が進んでおり、修繕を要す箇所も多くあり、今後改修や更新等の検討が必要な時期を迎えている。

5.今後の取組に向けて(Act)

(1) 事業実施上の課題等	当公園内の各施設の老朽化が進んでいるため、計画的な修繕が必要である。
(2) 今後の取組(修正・改善等)	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕や更新を行い、利用者の増加を図る。

6. 部内評価会議の結果 ≪最終評価≫・・・行政評価

実施日	最終評価	今後の取組(修正・改善等)【最終結果】
令08.07.27	A	適切な施設の維持管理に努め、計画的に施設の修繕や更新を行い、利用者の増加を図る。